

校長室の窓から

流水池完成記念日集会

7日(金)に、碓東流水池が完成して18年の記念日集会が体育館で開催されました。毎年、この時期に流水池を造るのにご尽力いただいた地域の方々や日頃流水池を管理して下さっている皆様をお招きして催されています。最初に、全校で「流水池ソング」を大きな声で歌ったあと、お客様の小出海順先生(当時の校長先生)にお話をしていただき、みんな大変良く聴いていました。その後、5・6年生の環境委員が流水池の生き物や植物、約束事などを劇にして全校児童の前で披露してくれました。集会の後に、3年生が総合の学習として松本立家さん達に専門的な説明をお聞きし、1年生は生活科の学習として内田礼子さん達に流水池の生い立ちなどのお話をお聞きしました。



流水池の整備作業は、PTAや学校職員が関わって行っているのは年間3回しかありませんが、地域の方々には6回以上(実質はもっと)作業し、故障の修理や手入れなどは日常的にしてくださっています。お陰様で、子供たちは毎日安心して流水池で遊ばせてもらっています。心から感謝申し上げます。これからも大事に使わせていただきたいと思います。

水芭蕉さいて、クマ、ヤマネもいた 尾瀬学校

14日(金)に、4年生が「尾瀬学校」に行ってきました。今年で2回目の尾瀬でしたが、梅雨の合間に絶好の晴れ間に恵まれて、学習することができました。当日は朝6:30に学校を出発し、鳩待峠には9時に着きました。子供たちは5~6人グループで8班に分かれ、それぞれの班に尾瀬の専門家である「尾瀬ガイド」さんが1人ずつついてくれました。班ごとに約3キロメートルの木道を歩いて尾瀬ヶ原に行きました。山にはまだ雪が残り、湿原には「水芭蕉」がたくさん見られて、みんな大感激でした。本当に上毛カルタのように咲き誇っていました。尾瀬ヶ原はさすがに涼しくて、そこではしか味わえない風景や空気を全身で感じる事ができました。久しぶりの好天で、動物たちも喜んだのか、おなかの赤い「イモリ」もたくさん泳いでいたり、遠くにクマを見た班もありました。また、本当に幸運な人しか出会えないリスのような「ヤマネ」を発見したグループは、ビジターセンターで「発見証明書」をもらっていました。帰りの木道からは、親子連れのクマが仲良く遊んでいる姿を見た班もありました。川を隔てて離れていたのに、危険な感じではありませんでしたが、尾瀬ガイドさんが「1日にこんなにたくさんの動物に出会えるなんて、私も初めてです」と言うくらい貴重な経験ができました。マイカー規制もあってなかなか個人では行きにくくなっている尾瀬ですが、群馬にこんなに素晴らしい自然があることを子供たちに感じて欲しいと思います。

